

# 認知症の人の声を聴くことから始まった 地域人財のつながり

～人財が生み出す認知症施策と地域包括ケアシステムとの連動～  
宮城県大崎市の取り組み



宮城県大崎市民生部高齢介護課高齢福祉係

社会福祉課地域包括ケア推進室

齋藤 瞳

中川 由紀代

# 1. 大崎市の紹介



## ＜大崎市の概要＞

- \* 大崎市は宮城県の北西部に位置する。
- \* 東西に約80km, 面積は796.76平方キロメートル
- \* 大崎市は平成18年3月31日, 古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町・田尻町の1市6町が合併した市である
- \* 日常生活圏域は上記の旧1市6町の区域を圏域の基礎とし, 古川地域を中学校区を基本とした5つの区域にわけた, 11圏域としている
- \* 各圏域は, それぞれ地理的条件や人口, 交通事情などその他の社会的条件が異なる

## <基本情報>

|                            | 平成29年4月1日現在      |
|----------------------------|------------------|
| 総人口                        | 132,878人         |
| 高齢者人口                      | 37,136人          |
| 高齢化率                       | 27.9%            |
| 世帯数                        | 50,832世帯         |
| 介護認定者数                     | 7,220人           |
| 要介護認定者率                    | 19.4%            |
| 認知症高齢者数<br>(介護保険主治医意見書Ⅱ以上) | 4,462人           |
| 第6期介護保険料(月額)               | 5,865円           |
| 地域包括支援センター数                | 4カ所              |
| 認知症地域支援推進員数                | 14人(行政2人, 包括12人) |
| 日常生活圏域数                    | 11圏域             |

## <市の特徴>

|           |                             |            |
|-----------|-----------------------------|------------|
| •人口密度     | 1km <sup>2</sup> あたり 167.0人 | 県内平均       |
| •人口増加比率   | △0.5%                       | (平均△0.19%) |
| •出生率      | 7.7% (1日あたり2.8人)            | (平均7.6%)   |
| •自然増加率    | 4.4% (1日あたり1.6人)            | (平均2.4%)   |
| •死亡率      | 12.1% (1日あたり4.4人)           | (平均10.0%)  |
| •平均年齢     | 49.0歳                       | (平均46.2歳)  |
| •生産年齢人口割合 | 59.0%                       | (平均61.7%)  |
| •老年人口割合   | 28.0%                       | (平均25.7%)  |
| •刑法犯認知件数  | 1日当たり 2.6件                  |            |
| •交通事故発生件数 | 1日当たり 1.4件                  |            |



市の花 ひまわり



市の木 桜



市の鳥 マガン

# <日常生活圏域(中学校単位)ごとの状況>

平成29年4月1日現在

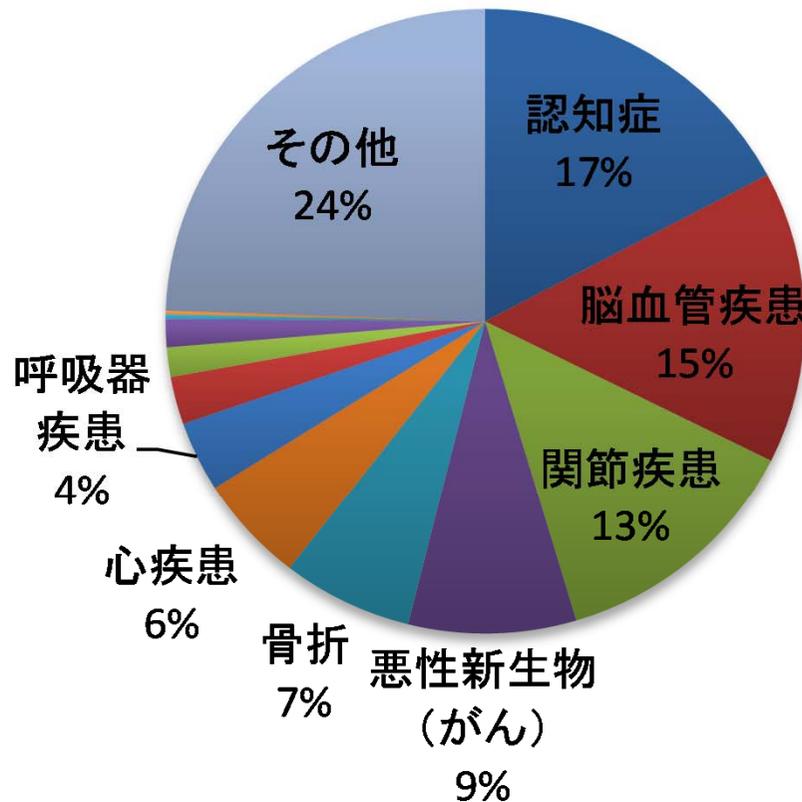
| 圏域名        | 人口<br>(人)      | 高齢者人口<br>(人)  | 高齢化率<br>(%)  | 要介護認定<br>者数(人) | 認定率<br>(%)   | 認知症高齢<br>者数(人) | 認知症高齢者の<br>認定者割合(%) |                      |
|------------|----------------|---------------|--------------|----------------|--------------|----------------|---------------------|----------------------|
| 古川中央       | 24,301         | 5,031         | 20.7%        | 831            | 16.5%        | 471            | 56.7%               | 古川地域<br>包括支援セ<br>ンター |
| 古川東        | 22,150         | 4,507         | 20.3%        | 792            | 17.6%        | 471            | 59.5%               |                      |
| 古川西        | 7,346          | 2,598         | 35.4%        | 510            | 19.6%        | 335            | 65.7%               |                      |
| 古川南        | 14,310         | 2,656         | 18.6%        | 463            | 17.4%        | 272            | 58.7%               |                      |
| 三本木        | 8,018          | 2,318         | 28.9%        | 391            | 16.9%        | 252            | 64.5%               | 志田地域<br>包括支援セ<br>ンター |
| 松山         | 6,201          | 2,079         | 33.5%        | 369            | 17.7%        | 203            | 55.0%               |                      |
| 鹿島台        | 12,109         | 4,014         | 33.1%        | 798            | 19.9%        | 513            | 64.3%               |                      |
| 岩出山        | 11,173         | 4,313         | 38.6%        | 937            | 21.7%        | 639            | 68.2%               | 玉造地域包<br>括支援セン<br>ター |
| 鳴子         | 6,385          | 2,820         | 44.2%        | 659            | 23.4%        | 424            | 64.3%               | 田尻地域包<br>括支援セン<br>ター |
| 田尻         | 11,225         | 3,783         | 33.7%        | 822            | 21.7%        | 501            | 60.9%               |                      |
| 古川北        | 9,660          | 3,017         | 31.2%        | 648            | 21.5%        | 381            | 58.8%               |                      |
| <b>大崎市</b> | <b>132,878</b> | <b>37,136</b> | <b>27.9%</b> | <b>7,220</b>   | <b>19.4%</b> | <b>4,462</b>   | <b>61.8%</b>        |                      |

※古川中央(古川中学校学区), 古川東部(古川東中学校学区), 古川西部(古川西中学校学区),  
古川南部(古川南中学校学区), 古川北部(古川北中学校学区)

※認知症高齢者数:介護保険主治医意見書により認知症高齢者自立度がⅡa以上の人数

＜大崎市新規要介護認定者における要介護に至る原因疾患の内訳＞  
(第1病名):頻度昇順  
(要介護に至る原因疾患の実態: 宮城県大崎市における主治医意見書の調査より)

## 大崎市 新規要介護認定の原因疾患



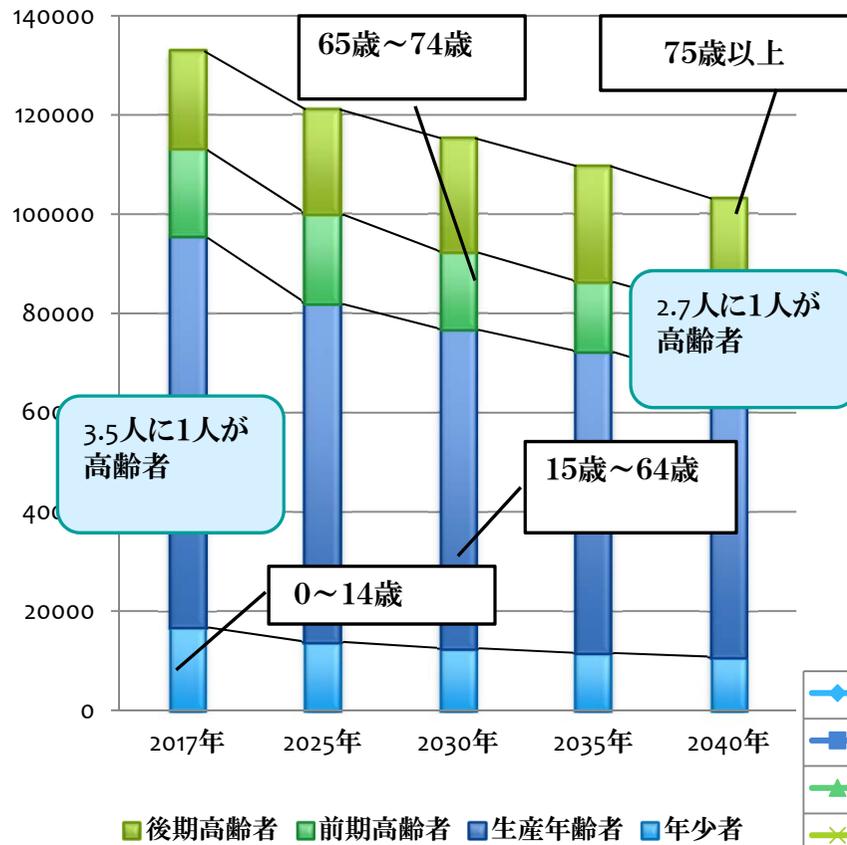
**対象:** 大崎市市民健康調査に参加した14,406名のうち、2007年4月1日～2012年11月30日に新規要介護認定となった2,879名

**データ:** 新規要介護認定時の主治医意見書記載の介護が必要となった原因疾患(第1病名)

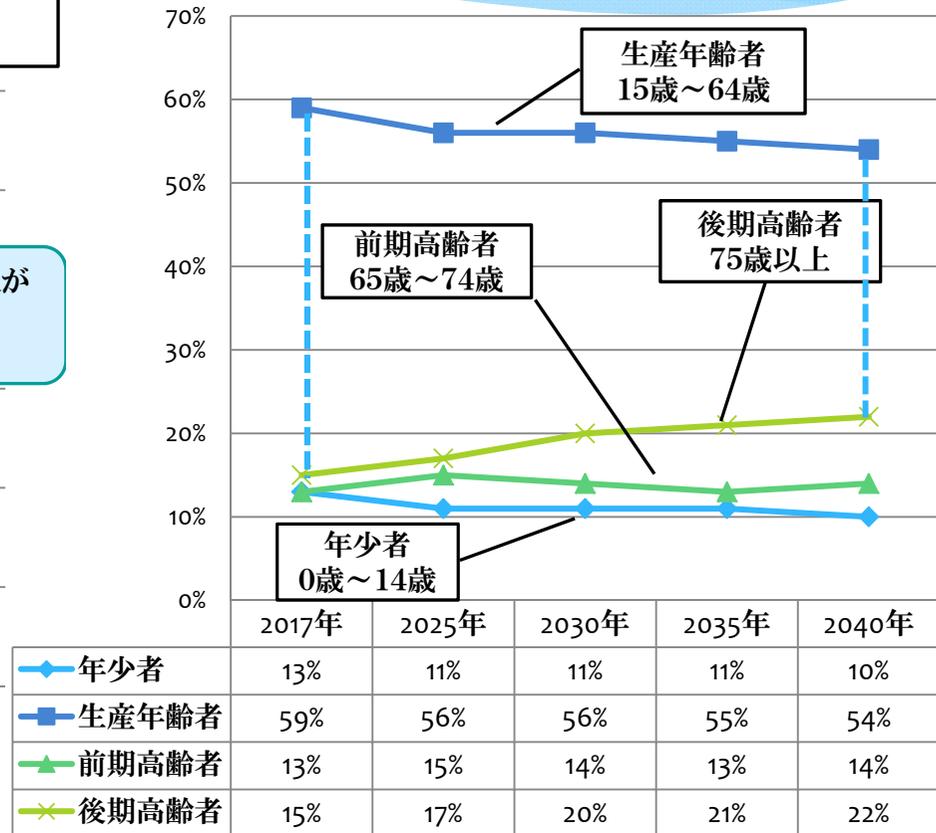
# ＜大崎市の少子高齢化の状況＞

今後、急速な高齢化が進み2040年の総人口は約10万人となり、高齢者人口は約3万6千人（総人口に対する割合 36%）になることが予測されている。

## 将来の人口推計（年齢4区分別）



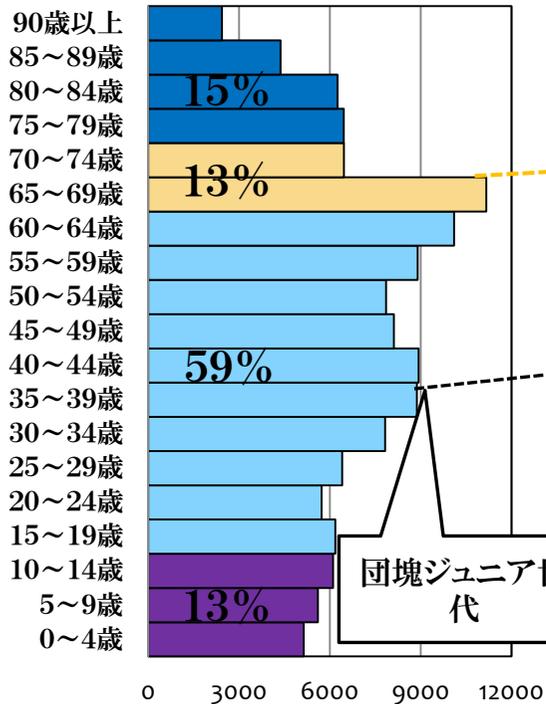
## 将来の推計人口の4区分別の割合



# <大崎市における人口ピラミッドの変化>

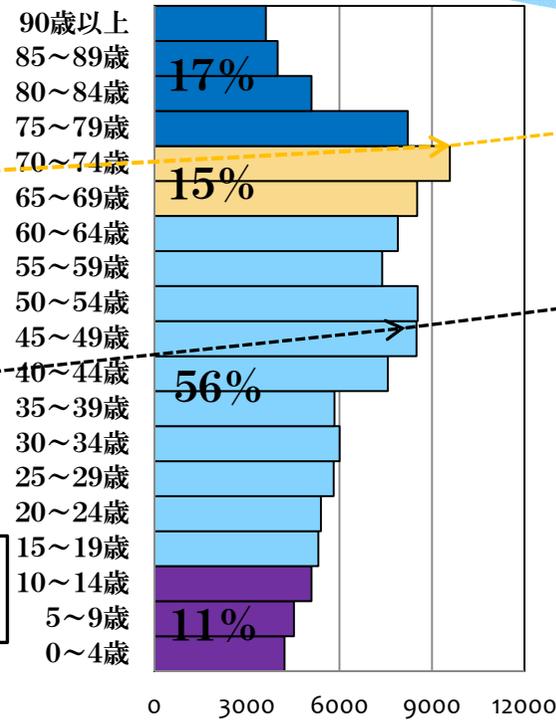
75歳以上の高齢者が増加, 2035年には2.9人に1人が高齢者

2017年(実績)



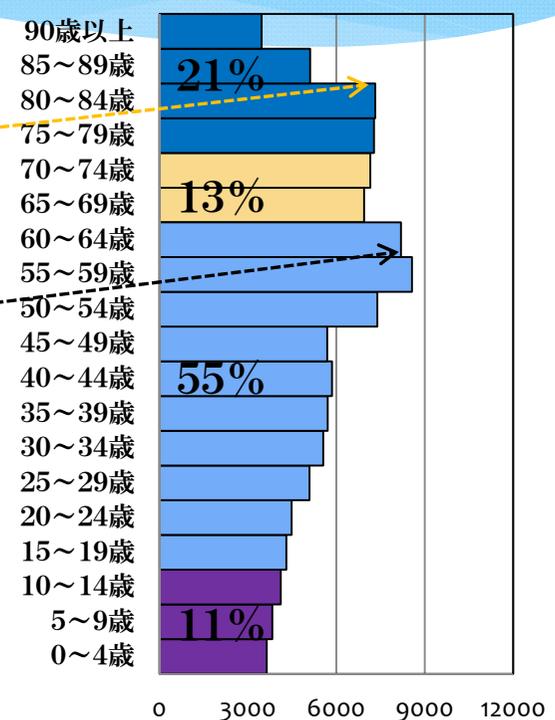
人口 132, 878人

2025年(推計)



人口 121, 122人

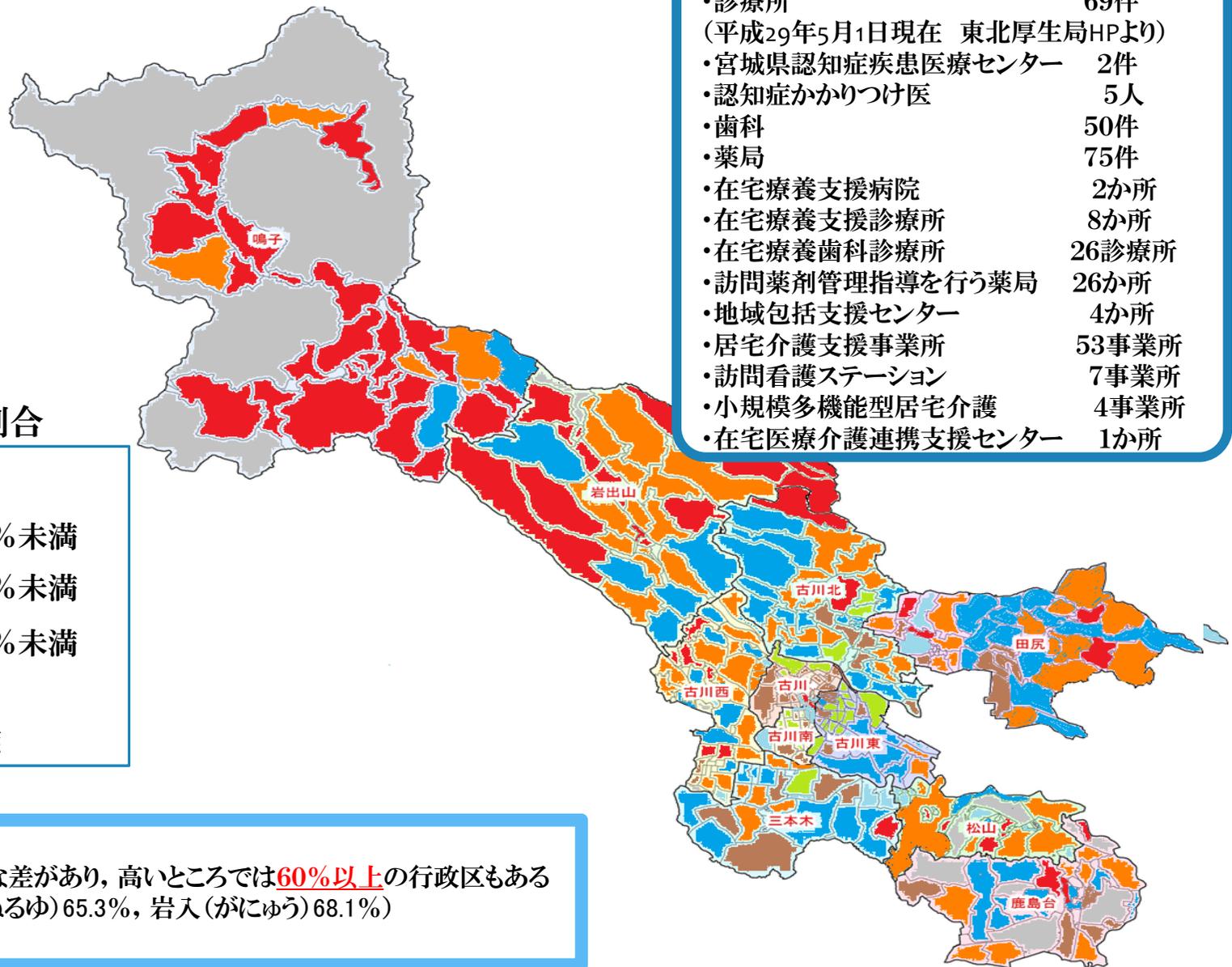
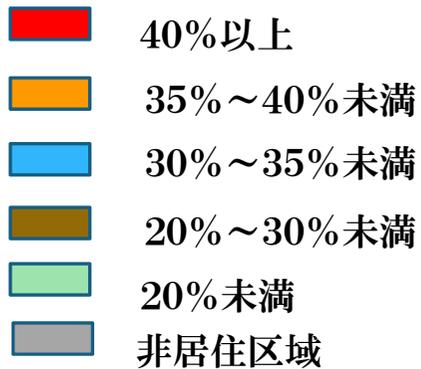
2035年(推計)



人口 109, 407人

# ＜大崎市の高齢化率の分布状況と社会資源＞

## 65歳以上の人口割合



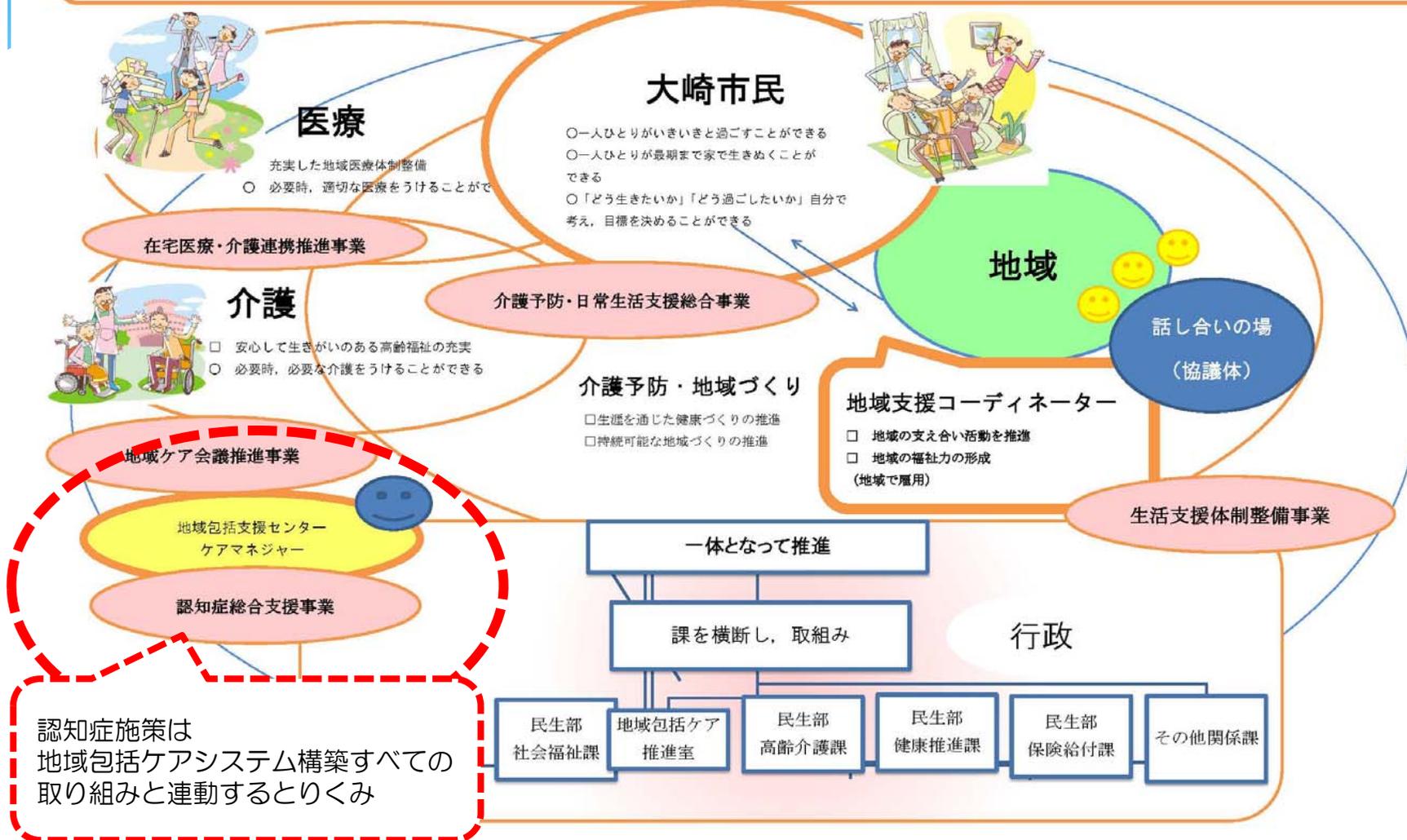
|                         |       |
|-------------------------|-------|
| ・病院                     | 16件   |
| ・診療所                    | 69件   |
| (平成29年5月1日現在 東北厚生局HPより) |       |
| ・宮城県認知症疾患医療センター         | 2件    |
| ・認知症かかりつけ医              | 5人    |
| ・歯科                     | 50件   |
| ・薬局                     | 75件   |
| ・在宅療養支援病院               | 2か所   |
| ・在宅療養支援診療所              | 8か所   |
| ・在宅療養歯科診療所              | 26診療所 |
| ・訪問薬剤管理指導を行う薬局          | 26か所  |
| ・地域包括支援センター             | 4か所   |
| ・居宅介護支援事業所              | 53事業所 |
| ・訪問看護ステーション             | 7事業所  |
| ・小規模多機能型居宅介護            | 4事業所  |
| ・在宅医療介護連携支援センター         | 1か所   |

市内の高齢化率に大きな差があり、高いところでは**60%以上**の行政区もある  
 (鳴子温泉地区:寒湯(ぬるゆ)65.3%, 岩入(かにゅう)68.1%)

## 2. 大崎市の認知症施策の全体像

### 大崎市の地域包括ケアシステム将来像 【宝の都(くに)・大崎~ずっとおおさき・いつかはおおさき】

○一人ひとりがいつまでもいきいきと住み慣れた大崎市で最期までくらすことができるために、地域と医療と介護が一体となった地域包括ケアシステムが構築される。



認知症施策は  
地域包括ケアシステム構築すべての  
取り組みと連動するとりくみ

## ＜大崎市の認知症施策の目指す方向＞

長期目標：（平成21年度～）

**いつまでもいきいきと認知症になっても  
安心して暮らせる大崎市**

中期目標：（認知症地域支援推進員活動目標平成23年度～）

**認知症の人と家族が優しい地域の輪の中  
で元気に暮らせる大崎市**



平成28年度～

**【認知症みんなで見つけみんなをサポート方式】**

認知症の啓発と地域づくり，ネットワークづくりを主に実施

## <大切にしている視点>

あくまでも本人本位  
(一人一人の支援を大切に)

認知症ケア基礎研修(センター方式研修)  
認知症初期集中チーム  
認知症サポーター養成講座  
認知症専門相談, 家族交流会など各種事業

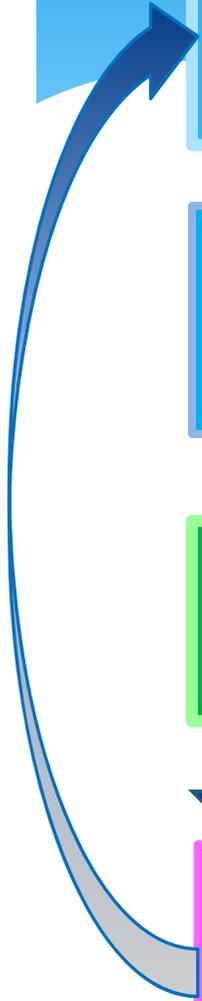
個別の相談から**地域資源(宝)**の  
活用につなげていけるように

認知症ケアパスの啓発  
【つながることで支援の流れができる】

個々の支援から  
地域の課題を検討

地域包括ケアシステムの構築  
(大崎市に合わせた仕組みづくり)

地域の課題から  
行政の施策化へ



## < 認知症施策の全体 >

| 新オレンジプラン七つの柱   | 取り組み内容   |
|--|--|
| 1 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進                                   | <p>① <b>認知症サポーターキャラバンの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーター養成講座を基礎とフォローアップの二種に分けて実施</li> <li>・活動できる認知症サポーターの育成に向けた取り組みの実施</li> <li>・学校教育等における認知症の人を含む高齢者への理解の推進</li> </ul> <p>② 大崎市キャラバン・メイト連絡会の実施</p> <p>③ 市民向け啓発の実施</p> |
| 2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供                                | <p>① 認知症ケアパスの啓発, 活用 (認知症対策推進協議会関連)<br/>認知症ケアパス (相談窓口版) のPR</p> <p>② 認知症地域支援推進員の配置, 活動の実施</p> <p>③ <b>認知症地域支援推進チーム育成研修</b></p> <p>④ 地域ケア会議の実施 (地域資源活用)</p> <p>⑤ <b>認知症初期集中支援事業及び認知症専門相談の実施</b></p> <p>⑥ 介護サービス事業所対象認知症ケアセンター方式基礎研修の開催</p>     |
| 3 若年性認知症施策の強化  | <p>① 若年性認知症の人と家族の交流会の実施 (栗原市, 県と共催)</p>  |
| 4 認知症の人の介護者への支援  | <p>① 認知症高齢者の家族介護交流会, 認知症カフェの開催</p> <p>② 家族向けの認知症介護教室等の普及啓発</p>   |
| 5 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進                                 | <p>① 認知症カフェの開催</p> <p>② 成年後見制度の活用促進</p> <p>③ 高齢者虐待防止に向けた取り組み</p> <p>※その他「生活支援」「環境整備」「就労・社会参加支援」「安全確保」については課題に応じ必要時検討していく</p>   |
| 6 認知症の予防法, 診断法, 治療法, リハビリテーションモデル, 介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進 | <p>※情報収集</p>   |
| 7 認知症の人やその家族の視点の重視   | <p>① <b>認知症の人と家族の実態把握調査「こころの声アンケート」の実施 (5年間の事業評価)</b></p>  |

### 3. 認知症施策の経過

#### ■平成18年合併当初の課題

旧市町でそれぞれ異なった保健活動の歴史。  
認知症施策の方向性や取り組む事業も異なる。(地域性の違い)

#### ■平成21年度

大崎市としての方針を決定する必要性あり  
⇒大崎市認知症支援検討委員会の設置(2か年)

※地域包括支援センターを直営から委託へ

〈市の認知症施策の長期目標を決定〉



いつまでもいきいきと、認知症になっても安心して暮らせる大崎市

#### ・ 認知症実態把握調査事業の実施

目的:市内全体の認知症の傾向を調査

一部モデル地域に実施(200名希望者, CDR, MRIの実施)

#### ■平成22年度～

調査報告を含め、認知症についての啓発を強化 (認知症サポーター養成講座の実施)

⇒認知症施策の方向性を『地域づくり』を主とする

地域の「高齢者の集い」中心に、認知症サポーター養成講座を実施

(課題)

講座を行政職員が認知症キャラバン・メイトとして実施

⇒ 初年度は事業拡大 ……しかし受講者が同じで継続, 発展が難しい

⇒ なかなか活動が活発にならない。 。 。

この方法でいいのか?  
(行政のみでの活動の限界…?)

## 東日本大震災 (平成23年3月11日)発生

市内にも重大な被害  
⇒ライフラインの寸断, 道路, 建物の倒壊,  
⇒避難所が開設  
※要援護者の把握・支援の検討  
全てが混乱, 急務の作業が次々と  
⇒(担当者の思い) **認知症高齢者の支援が大きな課題**



○平成23年度

認知症施策を重点事業として取組み開始, 認知症施策を体系化

⇒**第5期大崎市高齢者福祉計画・介護保険事業計画**に『**認知症高齢者の支援**』を明記

|                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 一次予防(発症予防・元気づくり)     | 1健康教育・健康相談・出前講座   |
|                      | 2高齢者の集い           |
| 二次予防(早期発見・早期対応・進行遅延) | 1認知症専門相談          |
|                      | 2高齢者の生きがいと健康づくり事業 |
|                      | 3認知症実態把握事後調査      |
| 三次予防(機能維持・悪化予防・家族支援) | 1認知症サポーター養成講座     |
|                      | 2認知症高齢者家族交流会      |
|                      | 3介護支援専門員等の認知症講演会  |

連携し活動推進するために, 認知症地域支援推進員を行政, 地域包括支援センターに配置

## 4. 認知症施策の取り組みの実際

- (1) 認知症の人と家族の実態把握調査「こころの声アンケート」
  - ① 取り組みのきっかけ
  - ② 調査概要
  - ③ 調査分析結果
- (2) 認知症地域支援推進チーム活動支援事業
  - ① 事業の概要, イメージ図, 研修体系
  - ② 事業の成果
  - ③ チーム活動の実際
- (3) その他の事業
  - ① 地域啓発の拡大
  - ② 医療とのネットワーク化

## (1) 認知症の人と家族の実態把握調査「こころの声アンケート」

### \* ①取組みのきっかけ

行政担当者と地域包括支援センターで担当者会議を開催

- ・活動の目標を決定
- ・既存の事業の見直し
- ・課題整理

認知症地域支援推進員の目指す姿(中期目標)

**認知症の人と家族が 優しい地域の輪の中で 元気に暮らせる大崎市**

### \* 活動を決定する中で大切にしたい考え方

事業や取組が認知症の人と家族の笑顔につながっているか確認しながら行っていきたい

認知症の人と家族に誰もが優しく温かい声かけができる地域になるといいな

認知症の人と家族が孤立しないで、地域の人達や関係機関みんなが同じ輪の中に入って、つながることができるといいな

活動を考える大前提として  
**認知症の人と家族の思いを聞こう!!**



**どんな方法?**



**認知症の人と家族の実態把握調査**  
**「こころの声アンケート」**  
**の実施**

## ②調査概要

### アンケートの目的

いつまでもいきいきと認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを推進するために、**認知症の人と家族の声を聴き、地域で暮らしていく上での課題について明らかにする**

認知症の人と家族に常日頃関わっている介護支援専門員に調査を依頼し、聞き取りを通し本音を聴くことで、認知症の人と家族の気持ちを知り、アセスメントに活かすことができる

### 《4種類のアンケートを実施》

- ご本人用アンケート
- ご家族用アンケート
- 介護支援専門員アンケート(調査に取り組んでの思い等)
- 事業所用アンケート(事業所として調査を通じての意見等)

### ■調査の位置づけ

#### \* 根拠法令

認知症対策等総合支援事業実施要綱、  
大崎市認知症施策総合推進事業実施要綱

#### \* 調査名称

認知症の人と家族の実態調査～こころの声アンケート～

#### \* アンケート実施期間

平成24年1月～平成24年3月(調査実施期間:平成24年1月24日～平成24年2月29日)

### ■調査概要

- ・対象者および対象者数:市内に在住の65歳以上の要支援・要介護認定者で概ね以下の要件に該当する方  
障害高齢者の日常生活自立度 自立～A 認知症高齢者の日常生活自立度 II 以上
- ・調査場所 在宅および グループホーム
- ・調査実施数 認知症高齢者 110件 その家族 91件 介護支援専門員106件
- ・調査方法 **聞き取り調査**

ご本人用アンケート用紙

こころの声アンケート  
～ずっとおおさき・玉の都のおおさきで～

大崎市では、最も「楽しい場所の中で元気に笑顔で暮らせる大崎市」をめざし、今回調査に際してみなさん自身の「大切にしていること」「大切にしたいこと」などの「声（気持ち）」を伺いたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

今年の2月からの調子はいいですか？  
悪く感じて辛くない、からだが大丈夫。

日ごろから楽しんでいる趣味や活動は？  
自内障子編んでから音が響くようになったけど、暑からぬ、つくるのが好きなの、いつかいつかって友達に上げたりしたんだよ。

日ごろからやりがいをしている家族や親戚は？  
おうちの息子だよね、あとお義理とお孫のことはおおききしてわかってから。

日ごろから訪ねるお出かけ先は？  
行きたいところはない、とまりの○○さん(友達)とお茶室でおしゃべりするよ、買い物はリマートと薬局に行くね、あとおチャコのお店とか、○○病院、△△喫茶店、デイサービスは楽しんでいる。

日ごろからかかわりのある友達や知人は？  
は、とまりの○○さん(友達)、毎日来てくれるヤクルト屋さん、あとお○○さん。(鳥飼養員)

わたしの得意なことは？  
ものづくりだね。

わたしの苦手なものは？  
人混みや騒がしい場所だね。

最近、うれしいこと、楽しいことは？  
おうちの猫、遠足で、お祭り観覧車に乗ってうれしかったよ。

私の不安や心配なことは？  
不安だよ、調子のこと、いっぱいある。気持のことも考えたら不安になる、寝たくなるよ。

周りの人にしてほしいことは？  
ほっといてほしい言葉は？

「行く前一緒に行くよ。」  
「遊びに来るからね。」  
「遊びに来てね。」

周りの人にして欲しくないことは？  
おかしなことをいってほしい。

わたしがやりたいことや夢は？  
旅行に行きたい。

ご本人用アンケート (記入例)

大崎市では、一番認知症の当事者、家族の身近な存在である介護支援専門員に依頼し、聞き取り調査として実施

## ③—I 調査分析結果 ご本人の声

認知症であっても、本人の感情や思いはいきている  
(これまでもこれからも・・・わたしはわたし)

- \* やりたいこと、得意なこと、自分の気持ちをもっている
- \* まわりの人に、認めてほしい、褒めてほしいと思っている
- \* また誰もががして欲しくないことは同じように嫌だ
- \* 役割や趣味があると嬉しい、楽しい
- \* 忘れることへの不安や体への不安、家族のことを心配している人もいる
- \* いろいろなことができなくなる理由は身体的な老化によるものの場合もある(認知症だけが原因ではない)

本人の気持ちをよく聞くことが何より大事(本人本位のケア)

本人の思い・アセスメントの重要性、本人を中心とする地域づくりをすすめたい

## ③ーⅡ 調査分析結果 ご家族の声

本人のことについて、現在のこと、将来のこと悩みや不安がある

- \* 何度も同じことを言うなど、判断・理解力の低下で本人の認知症に気が付く場合もあるが、性格が変わったり、行動が変わって気が付く場合もある
- \* BPSDの対応に、困っている(※ただし本人はまだ自分で出来と思っている場合もある)
- \* 本人を一人にできない、本人のことが心配、自分の時間がない、などで疲労しており、将来へ不安がある
- \* かかりつけ医への信頼、安心があるが、認知症への対応や家族の気持ちを理解してほしいという声もあり
- \* 利用する介護サービスへの感謝の気持ちが多い

周囲への認知症への理解によって介護者の負担感が大きく違う、  
家族の気持ちを傾聴することで本人のケアにつながる

本人、家族と関わる関係者への認知症サポーター養成講座の実施  
(認知症を支える地域づくりの展開)、  
家族支援の実施(認知症高齢者の介護家族交流会、認知症講演会)

# ③－Ⅲ 調査分析結果 介護支援専門員・居宅介護支援事業所の声

本人及び家族の気持ちを聞いて気がついた事がある

- \* 今回聞いてみて本人の思いや状態に気が付いた人も多かった
- \* 本人の気持ちを聞くのに、どのように伝えたらよいか悩んだと言う声もあった
- \* 家族の認知症を認めたくない気持ち、受け入れていった気持ちがあることが分かった
- \* 家族支援が大切だと気が付いた人もいる
- \* 医療と介護の連携、情報の共有の必要性がある
- \* 地域の理解の重要性や、社会支援の不足を感じている

アセスメントに活かしていくことが重要、本人本位のアセスメントと、  
本人に必要な地域づくりが大切と実感

研修会の実施・地域資源人材育成の実施

### ③－Ⅳ調査分析結果 まとめ(事業化へ)

○地域への思い(地域の理解があると本人も家族も安心)

→ 地域啓発の拡大(認知症サポーター養成講座の実施)

認知症キャラバン・メイトととも  
にアンケート結果を共有  
⇒活動の拡大

○介護サービスへの思い

(役割大, 介護サービスの認知症ケアへの理解で支援が広がる)

→ 横の連携の強化(人材育成事業の取り組み開始)

○医療への思い(かかりつけ医の役割大, 専門医との連携)

→ 医師会と連携し, ネットワーク化(認知症対策推進協議会の設置へ)

↓  
関係者で結果を共有分析し, 認知症施策に取り入れる<活動の根拠が明確になる>

※取り組みの拡大に向け認知症地域支援推進員を増員し, 連携して取り組める体制へ

## (2) 認知症地域支援推進チーム活動支援事業

### (事業の目的)

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続することができるようにするため、医療機関、介護サービス事業所及び地域の支援機関をつなぐコーディネーターとしての役割を担う認知症地域支援推進員を中心とした認知症地域支援推進チームを育成し、地域の連携強化を図る。

(対象者) 地域支援推進員（地域包括）、市内の地域密着型事業所、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、行政、

(事業の内容) 2カ年で1クールとして実施（初年度研修、二年目活動）

### (1) 認知症地域支援推進チーム育成研修

#### ① 認知症ケア地域型基礎研修 年2回

センター方式を通じ、本人本位の認知症支援を学び、実践していくための研修

#### ② 認知症ケア地域推進研修 年1回

地域の認知症支援の人材・チームづくりに向け大崎市の活動を学び、実践上の課題解決や活用方法を学ぶ研修。

#### ③ 認知症ケア地域型基礎研修（ファシリテーター実践研修）年2回

研修で学んだセンター方式を通じ、ファシリテーターとして、地域で認知症ケアを伝えるための実践研修。

#### ④ 認知症ケア地域推進トレーニング研修 年1回

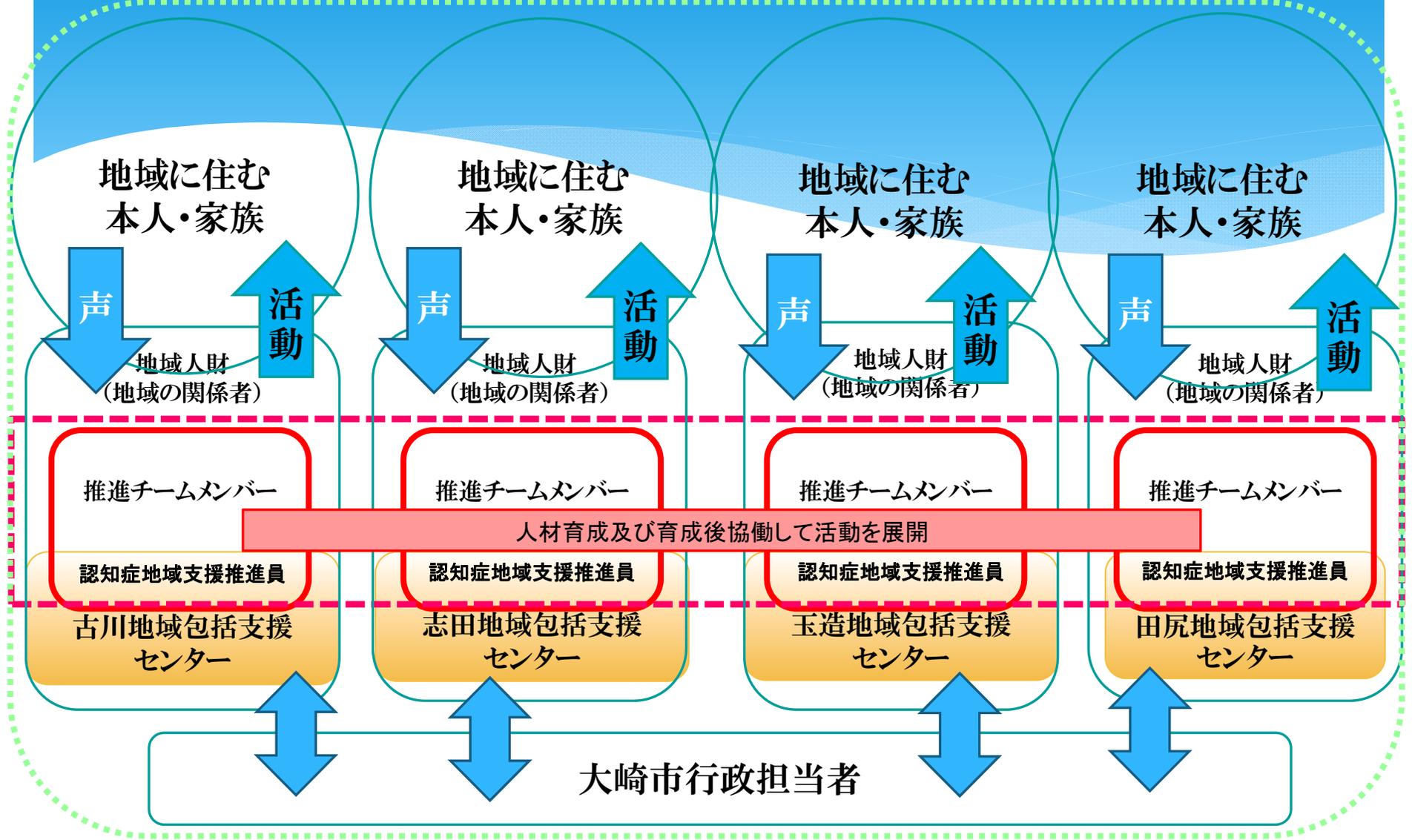
（認知症支援フォーラム：認知症講演会及びパネルディスカッション）

認知症の方を支える地域づくりと、現在取り組んでいる活動について発表し、認知症及びその支援の活動について広く啓発する。

### (2) 認知症地域支援推進チームフォローアップ研修（年2回）

地域が活動するためのスキルアップのための認知症ケアの研修を実施する。

# 人材育成のイメージ図



※1クール2年とし、継続して育成(クール終了後も継続しメンバーとして活動可能)⇒地域ごとにも活動する仲間が増えていく

# 平成28年度・平成29年度研修体系

参考資料

## ■ 市認知症地域支援推進チーム育成研修

| 項目   | ①認知症ケア地域型基礎研修   |                                | ②認知症ケア地域推進研修   |  | ③認知症ケア地域型基礎研修<br>(ファシリテーター実践研修)                 |                     | ④認知症ケア地域推進<br>トレーニング研修                                      | 研修対象者   |
|------|---|--------------------------------|--|--|---|---------------------|---|---|
| 日時等  | 第1回   | 第2回                            | 第3回  |  | 第1回   | 第2回                 | 第4回   | ①地域包括支援センター<br>の認知症地域支援推進員<br>4名<br>②市内介護老人福祉施設職員<br>(各事業所より1名) 11名<br>③市内地域密着型事業所職員<br>(各事業所より1名) 19名<br>④市内訪問看護事業所<br>(各事業所より1名) 8名<br>⑤高齢介護課または各総合<br>支所市民福祉課担当職員<br>3名<br><br>(合計)45名 |
|      | 7月22日(金)<br>10:00-16:00   | 8月23日(火) (同日開催)<br>10:00-15:00 | 15:00-17:00  |  | 1月中旬<br>13:00-17:00                             | 2月中旬<br>13:00-17:00 | 3月<br>13:00-16:00   |   |
| 内容等  | センター方式を通じ、本人本位の認知症支援を学び、実践していくための研修。<br>※センター方式は、本人と家族を中心に、支援関係者が共通シートを使って事実情報やお互いのアイデアなどを共有し「本人と家族のよりよい暮らし」を一緒に目指していく方法です。 |                                | 地域の認知症支援の人材・チームづくりに向けた研修。<br>現在の認知症地域支援推進チームと合同に行い、現在の活動を通し、実践上の課題解決や活用方法を学ぶ |  | 研修で学んだセンター方式を通しファシリテーターとして、地域で認知症ケアを伝えるための実践研修。 |                     | 認知症の方を支える地域づくりと、現在取り組んでいる活動について発表し、認知症およびその支援の活動について広く啓発する。 |   |
| 研修講師 | 講師 小森 由美子 氏<br>認知症地域推進人材・チームづくりプロジェクト<br>NPO法人地域生活サポートセンター(認知症介護研究・研修東京センター客員研究員)<br><br>大崎市認知症地域支援推進員、大崎市認知症地域支援推進チームメンバー  |                                |  |  |   |                     |   |   |

## ■ 市認知症地域支援推進チームフォローアップ研修

| 項目  | 現認知症地域支援推進チームフォローアップ研修  |                   | 研修対象者   |
|-----|---|-------------------|---|
| 日時等 | 第1回   | 第2回               | 現認知症地域支援<br>推進チーム 40名                                       |
|     | 8月23日(火)<br>15:00-17:00   | 3月<br>13:00-16:30 |   |
| 内容等 | 地域の認知症支援の人材・チームづくりに向けた研修。<br>育成研修と合同に行い、認知症地域支援推進チームの活動を通し、実践上の課題解決や活用方法を学び、人材・チームづくりに向けての実践研修。 |                   | 認知症の方を支える地域づくりと、現在取り組んでいる活動について発表し、認知症およびその支援の活動について広く啓発する。 |

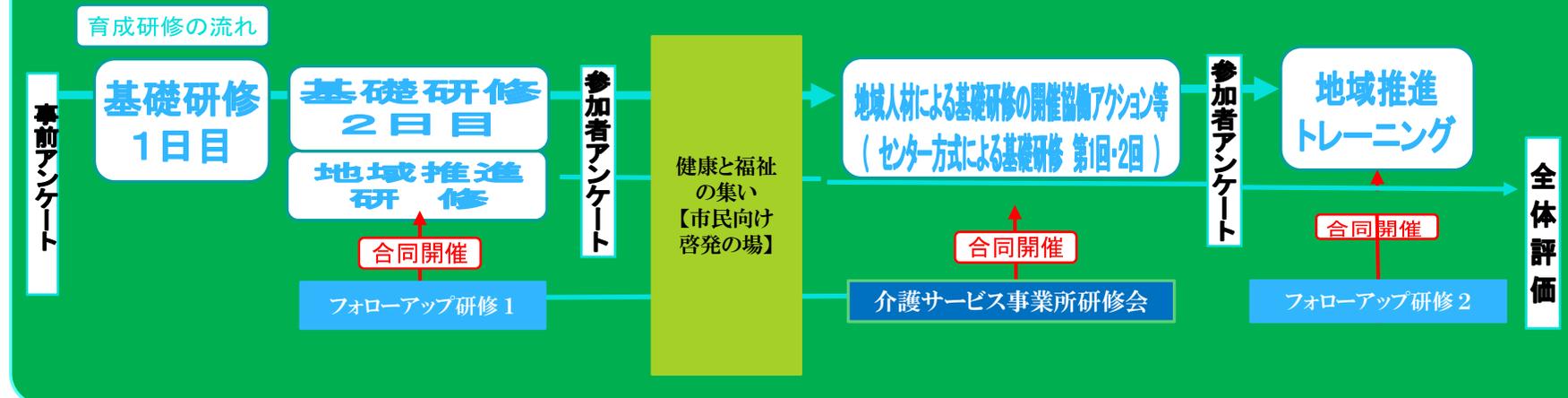
## 市認知症地域支援推進介護サービス事業所研修会

| 項目  | 大崎市介護サービス事業所研修会(認知症基礎研修)   |                                      | 研修対象者                      |
|-----|--|--------------------------------------|----------------------------|
| 日時等 | 第1回<br>1月中旬<br>13:00-17:00<br>北会議室2階   | 第2回<br>2月中旬<br>13:00-17:00<br>北会議室2階 | 市内の介護サービス事業所より希望者<br>定員40名 |
|     | センター方式を通じ、本人本位の認知症支援を学び、実践していくための研修。<br>認知症地域支援推進チーム育成研修受講者をファシリテーターとして、地域で認知症ケアを伝えるための実践研修。 |                                      |                            |
| 内容等 |  |                                      |                            |

## 市民向け啓発

| 項目  | 健康と福祉の集い                     | 対象者                   |
|-----|------------------------------|-----------------------|
| 日時等 | 10月15日(土)①16日(日)②            | 認知症に関する取組に関心のある方などの市民 |
|     | ①13:00-15:00<br>②10:00-15:00 |                       |
| 内容等 | 認知症地域支援推進チーム活動の発表, 認知症カフェ等   |                       |

## 大崎市認知症地域支援推進チーム研修事業の流れ



# 事業の成果

★認知症地域支援推進員 ⇒ **仲間ができた**

★チームメンバー ⇒

・特別養護老人ホーム⇒職員の意識が変わったら**ケアが変わった**

・グループホーム⇒センター方式の視点を取り入れて、アセスメントを見直したら、ケアが変わって、本人が落ち着いた。職員間のコミュニケーションも。

・短期入所生活介護⇒なじみの生活を取り入れたら、ショートステイで本人が落ち着いて過ごすことができた

・居宅介護支援事業所⇒本人・家族の気持ちが理解できた  
(アセスメントが変わって、サービス事業所と情報共有ができた)



地域ごとの課題に合わせたやりかたが重要

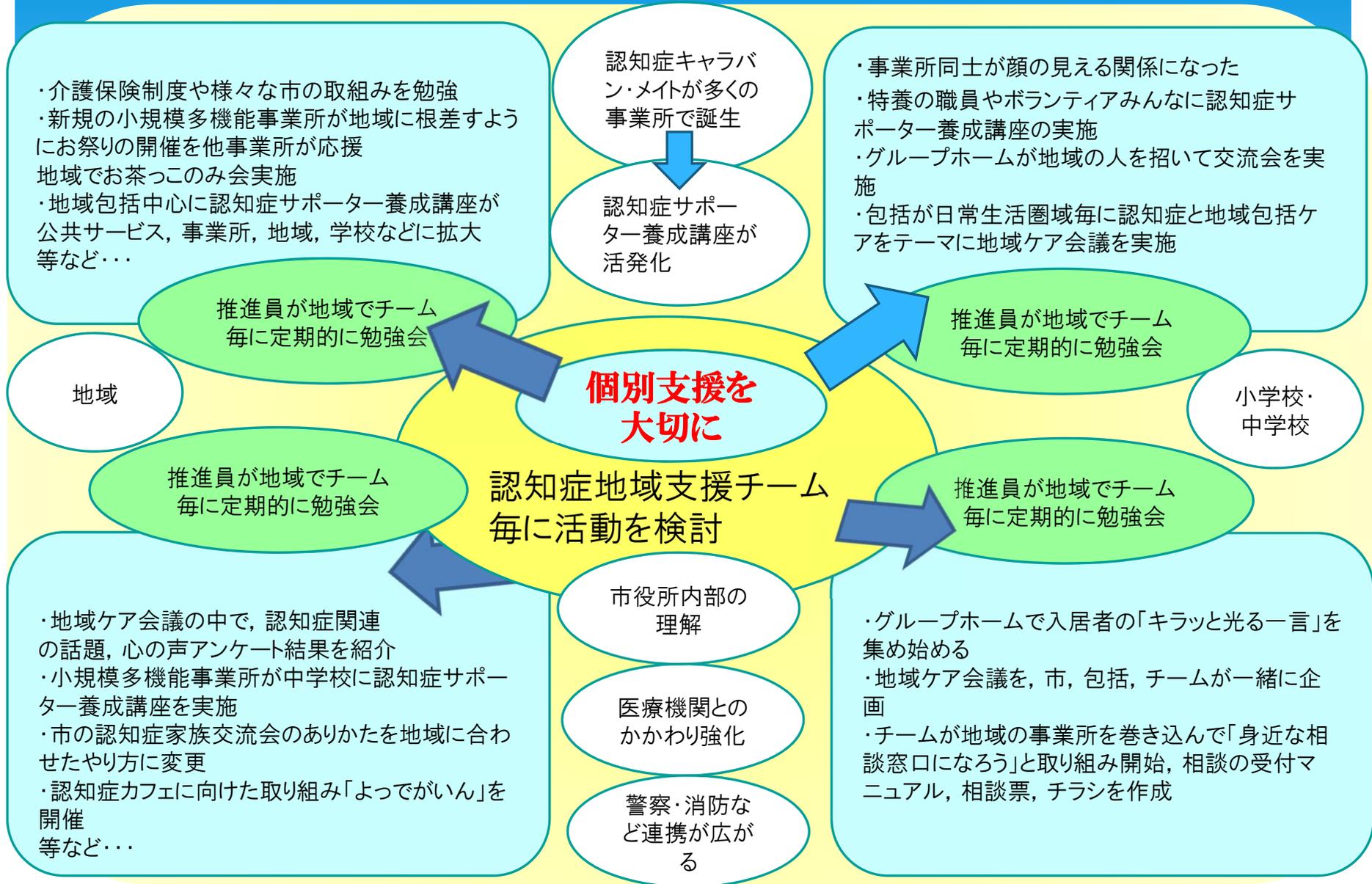


継続して人材育成を実施することで、活動の輪が広がり、取り組みも拡大



チームの事業所が連携⇒勉強会の開催各事業所が相談窓口  
地域に集まる場所がない⇒認知症カフェの開催 等々……

# 取り組みを継続しての成果



**人材・チーム育成を通じて地域の連携と認知症施策が一気に進展した**

人材育成⇒地域へ

# 地域に合わせた多様な認知症カフェ

グループホームを地域に開放し開催

観光案内所を  
定休日に借りて  
開催

当事者がカフェ  
のスタッフとして  
活躍

民間事業所が経営するカフェ  
の空き時間に開催

近所に住む当事者、家族、地  
域の人の憩いの場

人材育成⇒地域へ

# 出張認知症カフェ開催の様子



庁舎のホールで開催



身近な場所に参加できることで、  
定期開催のカフェにつながる場  
合もある



その他 地域の「健康と福祉のつどい」、  
文化際、地域のマルシェなど**人の集まる  
所でカフェ(同時に相談コーナー)を開催**

認知症地域支援推進チームがそれぞ  
れの地域性を活かし、地域の方々と  
連携し、開催している

### (3) その他の事業

## 認知症の理解を踏まえた地域の介護予防事業の展開

### 大崎市認知症キャラバン・メイト連絡会の開始

2カ年で、実績が倍以上！！ 開催箇所の種類も増えた！！（年間100回以上）

⇒ **キャラバン・メイト**自らも、認知症サポーター養成講座を**計画・実践**

① 自分の所属する職場

例「デイサービス職員のメイトが企画」

② 自分の住んでいる地域で

例「自分が所属する地域の会で企画」

③ 職場としてつながりたい地域で

例「新設の小規模多機能事業所職員のメイトが企画」  
「包括職員のメイトが企画」

④ 日常の活動の中で機会をとらえて

例「介護支援専門員のメイトが企画」

⑤ 市で行っている出前講座として

大崎市キャラバン・メイトの  
合言葉

「認知症の人と家族が安心して  
暮らせる地域のために、まず  
**身近な場所で、得意なことから  
やってみよう！！**」

地域の啓発を進める中で、  
「認知症サポーターとして何かしてみたい」「どんなことができるの？」  
地域から声が出るようになった

**自分のためにみんなのために健康づくりをしながら地域づくりへ  
（介護予防事業の展開へ）**



キャラバン・メイトでより効果的な活動にするために媒体を作成したり、寸劇の台本を考えたり・・・



地域の集まり、コンビニ、学校、警察・消防・ネクスコ・薬剤師会・薬局・・・認知症について啓発し、早期発見・早期診断の重要性、地域づくりをみんなで考える講座を積極的に実施

# 身近な地域で**みんなの集う場**が増えてきた (いきいき百歳体操自主グループ)



地域の介護予防の  
集まりに、地域の**み  
んな**が集い、見守り、  
役割を持ち、  
「**みんなでここで元  
気に過ごす!**」場が  
増えた。

## 医療との連携強化

### ・認知症施策

【認知症専門相談(年12回), 認知症家族交流会, 認知症講演会】

⇒平成22年度から年2回程度, 行政の認知症施策担当(平成23年度より認知症地域支援推進員等)と市医師会で, 認知症対策について協議

・顔の見える関係づくり

・それぞれの立場で課題としていることの共有し事業化へつなげる

⇒平成24年度より

**認知症地域支援推進員(行政および地域包括)も協議に参加**

・各地域としての課題(個別事例の支援の流れや連携の課題等)について話し合う

・認知症の人と家族の実態把握調査「こころの声」アンケートの報告

**連携強化の第一歩**

⇒平成26年度より認知症対策推進協議会の設置及び認知症ケアパスの構築

この連携を通じて, 在宅医療・介護連携事業の  
推進の流れが合わせて出来る

# 大崎市認知症初期集中支援推進事業①

## \* 大崎市認知症サポート訪問チーム【つなぎ】

### 【事業の目的】

いつまでもいきいきと認知症になっても安心して暮らせる大崎市を目指し、認知症の疑いのある人又は認知症の人やその家族を訪問し、観察・評価を行ったうえで本人・家族支援等の初期の支援を包括的・集中的に行い、かかりつけ医と連携しながら認知症に対する適切な治療につなげ、自立生活のサポートを行うことを目的とする。

### 【事業の対象者】

・原則として大崎市内に住所を有する40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下の①、②いずれかに該当する人とする。

①医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する人

- ア 認知症疾患の臨床診断を受けていない人
- イ 継続的な医療サービスを受けていない人
- ウ 適切な介護保険サービスに結びついていない人
- エ 診断されたが介護サービスが中断している人

②医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著のため、対応に苦慮している人

### 【事業の内容】

#### (1) 普及啓発事業

市民や関係機関、関係団体等に対し、支援チームの役割や機能について広報活動

#### (2) 初期集中支援の実施

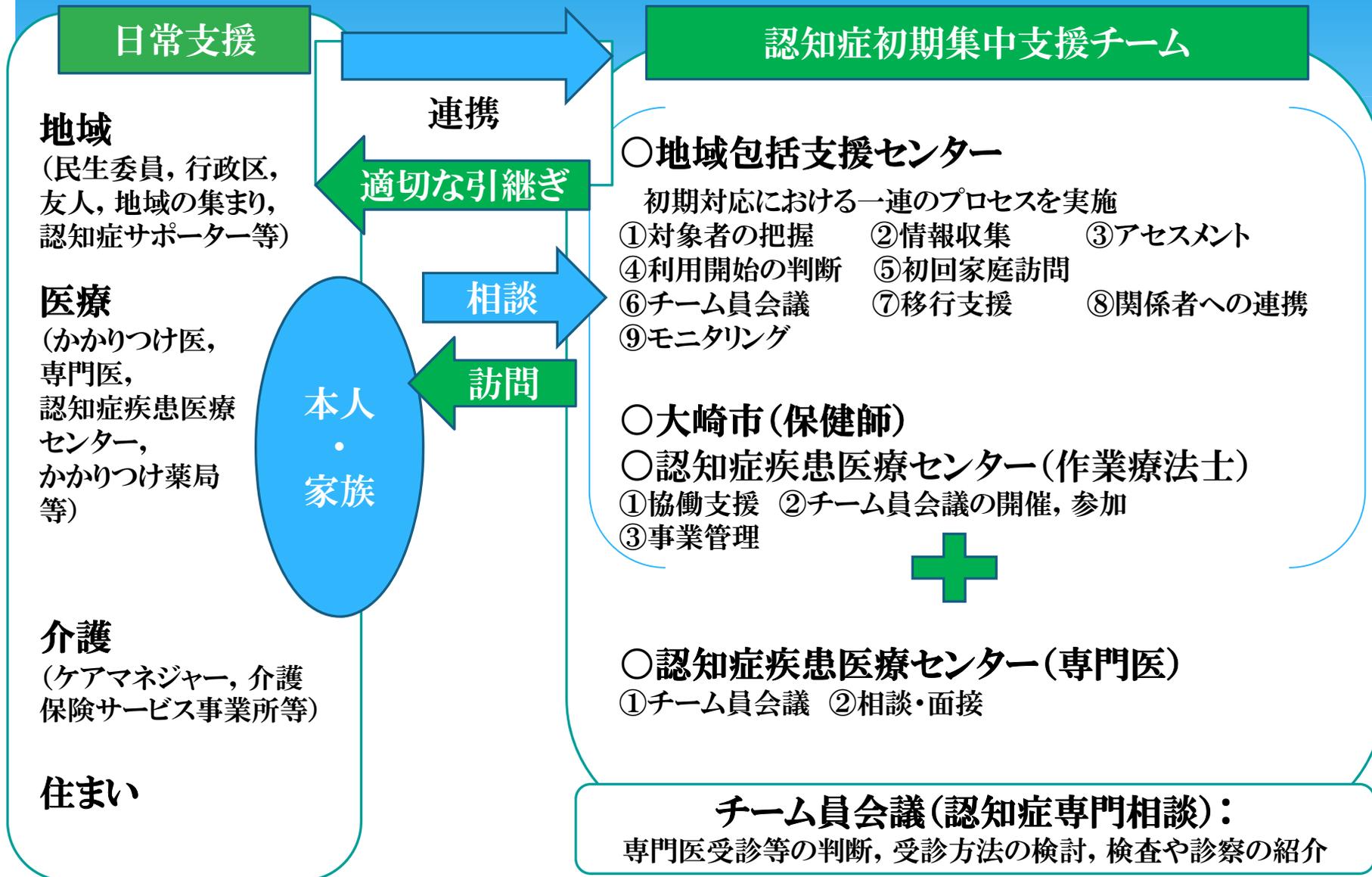
(次ページ位置づけ明記)

対象者の把握、情報収集、アセスメント、初回訪問の実施、チーム員会議の実施、必要に応じた医療サービス、関係機関等との連携、モニタリング、記録管理

#### (3) 認知症初期集中支援チーム検討委員会の設置

既存の事業である認知症専門相談事業を基に、上記の事業に転換

# 大崎市認知症初期集中支援推進事業の位置づけ



## 課題

人材育成をはじめて今年で6年目・・・。  
当初想像もしていなかった活動の広がり, 仲間の広がり！！  
でもまだ課題は様々・・・。

認知症の人・家族の思いにそっているか必ず意識する  
・「なにかしたい」が「事業をする」ことが目的になりがち, 絶えず振り返りが必要

地域による活動の差  
・地域に根差す, 地域に合わせた事業展開をしているが, それでも活動が困難な地域もあり

継続

早期対応！！  
個々の相談を丁寧に！！  
つなぎを意識！！

タイミングを大切に

まだまだつながっていない世代や, 関係者がたくさん  
・新しい人との出会い=新しいつながりづくりと捉え, 機会を積極的に見つけていく

「伝える」から「ともに考え一緒に行動する」へ  
・「認知症」を自分のこととして考えられる人を増やしていくこと  
・今までは「啓発」が「伝える」中心だったが, 活動できる仲間を丁寧に作る事が大切

地域包括ケアシステムの構築に向けて他の取り組みと一体的に進めていくことが大切



仲間がいれば  
広がっていく

活動をふりかえって  
最後に…

ひとりひとりの出会い・  
言葉・場面を大切に

自分の持っている役割・相手の役  
割を活かして発揮！！  
つながりは力になる！！

発信していく



みなさん、ぜひ一緒に活動をしていきましょう

**大崎 認知症ケアフォーラム**

認知症の人々を支える関係機関で、  
これからの多職種連携の体制構築について考えます。

1開催日時 平成27年3月3日(火)13時～15時30分(受付12時30分～)

2場 所 大崎生涯学習センター(大崎)

3対 象 者 市内の介護事業所(匿名介護  
医療機関(大崎市))

4内 容 第一部 フォーラム  
(1) 大崎市の現状と認知  
(2) 大崎市の認知症の支援の  
1) 「一人」の暮らしにじっくり関わり  
2) 地域での生活を支える多職種体制の構築に向けて  
3) 地域での日常生活・家族の支援の強化  
発表者 大崎市認知症地域支援推進員 大崎市認知症キャラバン・メイト

第二部 基調講演 14時30分～

「認知症ケアに携わる多職種連携」  
～今、わたしたちにできること～

講師 認知症介護研究・研修センター 研究部長 永田 久美子 氏

参加希望の方については下記まで電話または郵便用紙記入の上FAXで  
お申し込みください。2月27日  
(申込・問い合わせ先) 大崎  
電話 23-2511(内線2)

主催 大崎市 大崎市認知症対策協議会  
大崎市古川地域包括支援センター 大崎市志田地域包括  
大崎市玉連地域包括支援センター 大崎市根城地域包括支援センター  
後援 大崎市医師会 大崎古川医師会 大崎根城医師会 公益社団法人認知症の人と家族の会大崎県支部

# 大崎市話し合う協働のまちづくり条例

## 前 文

まちはみんなで作るもの。

私たちは、より住みよい暮らしを実現するため、話し合いを大切にした協働のまちづくりを進めます。

暮らしの中にある悩みや不安、喜びや楽しみを分かち合い、互いを尊重し、助け合いながら、地域の抱える課題を解決していきます。

そのために、市民も行政も、みんなが主体となって、対等な関係で話し合いを行います。

話し合うことによって、想いや考えが伝わり、人と人とのつながりが生まれます。

そして、一人では思いつかなかった新しい気づきや発想が生まれます。

そう、話し合いの過程が人をはぐくみ、まちをつくるのです。

話し合いの文化を根づかせていくことが、私たちの目指す協働のまちづくりの姿です。

そんなみんなの声を活かせるまちをつくるため、この条例を制定します。

(平成26年4月施行)



ずっとおおさき 宝の都

ご清聴ありがとうございました

